

作成年月日：2021年3月26日

ご報告

久留米大学では、他施設と共同で実施する下記研究のために、受診時に患者さんから取得された診療情報等を共同研究機関へ提供し実施していますが、本来2017年10月に公開すべき下記の患者様への大切なご案内が、事務手続きの不手際で遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。なお、すでに研究は終了し研究成果の公表となりますので、データの削除等ができないことも重ねてお詫び申し上げます。下記のご案内に該当する方で、ご意見やご不明な点などがございましたら、久留米大学病院臨床研究センター 電話：0942-65-3749（直通）（対応可能時間 平日9:00~16:00）までご連絡ください。

なお、下記研究は久留米大学の倫理委員会にて「社会的に重要性が高い研究」等の特段の理由が認められ、研究機関長の承認を得て実施しています。当該診療情報等の使用については、研究計画書に従って匿名化処理が行われており、研究対象者の氏名や住所等が特定できないよう安全管理措置を講じた取り扱いを厳守しています。本研究に関する詳しい情報をご希望でしたら問い合わせ担当者まで直接ご連絡下さい。また、本研究の成果は学会や論文等で公表される可能性がありますが、個人が特定される情報は一切公開しません。

【研究課題名】内視鏡的胆管内自己拡張型金属ステント留置後の内視鏡的抜去試行例についての多施設共同後方視的症例集積研究

【共同研究の研究代表機関及び研究代表者（試料・情報の管理責任者）】

宮崎大学医学部医学科消化器内科学講座 河上 洋

【研究分担施設・研究責任者】・ 他別紙参照

【今回の対象者（研究対象者）】

- 1) 受診期間：西暦2012年1月から2016年12月までの間
- 2) 受診科：久留米大学病院消化器内科および共同研究機関の各診療科
- 3) 対象疾患名：胆道メタリックステントを留置し抜去された患者さん

【診療情報等の項目】

診療情報等：診断名、年齢、性別、入院日、既往歴、抜去後の経過、CT画像 等

授受の方法：郵送・宅配 電子的配信 直接手渡し その他（ ）

【研究目的】

本研究は、内視鏡的（経乳頭的）に胆管内に留置した自己拡張型金属ステント（SEMS）の抜去を試みた症例に対して、SEMS抜去成功率やその成功の可否を狭窄部位別、留置状況別、SEMSの種類別、留置期間別、抜去に使用した各種処置具別に解析し、その有用性を後方視的に明らかにすることを目的としています。

【研究（利用）期間】久留米大学倫理委員会承認後からすでに終了しています

【利益相反に関する事項】本研究は特定企業からの資金援助はないため利益相反は発生しません。

【問い合わせ先】

（本学）研究責任者：久留米大学医学部 消化器内科講座 准教授 岡部 義信

電話：0942-31-7561（直通）（対応可能時間 平日9:00~17:00）

研究番号 19162

別紙

順天堂大学 消化器内科 伊佐山浩通
手稲溪仁会病院 消化器病センター 瀧沼朗生
伊達赤十字病院 消化器科 久居弘幸
北海道大学 光学医療診療部 桑谷将城
仙台市医療センター 消化器内科 伊藤 啓
群馬大学 消化器・肝臓内科 水出雅文
帝京大学医学部附属溝口病院 消化器内科 安田一朗
東京大学 消化器内科 中井陽介
横浜市立大学 市民総合医療センター消化器内科 杉森一哉
山梨大学 第一内科 深澤光晴
富山県立中央病院 内科（消化器） 松田耕一郎
JA 長野厚生連 佐久総合病院 消化器内科 比佐岳史
岐阜大学 第一内科 岩下拓司
岐阜市民病院 消化器内科 向井 強
愛知県がんセンター中央病院 消化器内科 原 和生
名古屋市立大学 消化器・代謝内科学 内藤 格
京都大学 消化器内科 児玉裕三
北播磨総合医療センター 消化器内科 佐貫 毅
日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 上野山義人
岡山大学 消化器・肝臓内科学 加藤博也
島根大学 腫瘍センター 森山一郎
鳥取赤十字病院 内科 後藤大輔
熊本大学 消化器内科 階子俊平
熊本赤十字病院 消化器内科 浦田孝広
鹿児島大学 消化器疾患・生活習慣病学分野 橋元慎一
関東中央病院 消化器内科 外川 修
日本赤十字社医療センター 消化器内科 伊藤由紀子